

GOEMON SEBUN ～盗りてえヤツらがやってきた～

登場人物

市之介 役者 石川五右衛門ビジュアル担当

仁衛門 老武者 斉藤利三の家来であり、奈々緒に付き従う。

参蔵 情報屋 盗みの場所の調査担当 実家は家康の密偵

志摩 石川五右衛門のメンバ。カラクリなど発明担当

樹 石川五右衛門のメンバ。医者であり志摩の弟

睦彦 石川五右衛門のメンバ。大工であり、軽業と京の建物に詳しい。

奈々緒 本名はお福 斉藤利三の娘であり、後の春日局

弥治郎 時代を先取りしすぎた新聞売り。市之介の友人

久美 睦彦の女房

豊臣秀吉 時の太閤殿下。かつて光秀を罵にかけて天下を取った

石田三成 秀吉の知恵袋 秀吉の命により石川五右衛門捕縛を担当する

加藤清正 後に虎退治で有名になる武者

前田玄以 京都所司代。石川五右衛門に振り回されている

ねね 秀吉の正妻 秀吉と苦勞を共にしてきた自負がある

茶々 淀君 秀頼を産み、ねねとの主導権争いに終止符を打った

その他捕り方等

京の大通り。

新聞売り弥治郎登場

弥治郎　おい、見てくれよ、新聞だよ、石川五右衛門のことが書いてるよ、安いよ。おい、誰か買ってくれよ！

誰も買わない。

弥治郎　……はあ。

市之介登場

市之介　よう弥治郎、景気はどうだい？

弥治郎　いらっしゃ……なんだ市之介か。見ての通りだよ。

市之介　てんで駄目じゃないか。これかい、今度の新しい商売ってやつは？

弥治郎　おう、平和になってみんな娯楽に飢えているはずなんだ。特に、何か事件が起きた時は真っ先に知りたい。そうだろう？
で、俺はこれ考えた。誰よりも早く、情報を仕入れてそれを書き記す。みんなはそれを買えば「新」しい情報をすぐ

「聞」くことが出来るんだ。俺はこれを略して「新聞」と名づけたね。

市之介　新聞か。……流行るのかねえ？

弥治郎　勿論さ、絶対流行るって、流行って流行っていつか三ヶ月契約で遊園地のチケットとかもらえるようになるって。

市之介　お前の言うことは時々わからないな。しかし、お前も物好きだよな。別にこんなこととしてなくても大店（おおだな）の跡取り息子じゃねえか。

弥治郎　ウチが金持ちなのと俺自身は関係ないよ。いくら上等な果物だって下で口を開けたまま待ってても仕方ないだろ。俺は直接枝からもぎ取って食いたいんだ。大体、お前だって俺と似たようなもんじゃないか。最近どうなんだい？

市之介　……また小屋を追いつかれたよ。小屋のオヤジが、あんなの邪道だってよ。

弥治郎　ふへん、俺はいいと思うけどな。あね。

市之介　だろ？　伊達な男達が傾奇いた格好で踊りまくる　名づけて「かぶき踊り」だ　能や狂言にはない躍動感　平和になった今

だからこそ血沸き肉踊るものこそ大衆が求めているものなんだ……ってのが　偉い連中はわかっちゃいないんだ

弥治郎　そういつて師匠のところ破門されてからもう何年だっけ？

市之介　三年だ。『見てろよ　いつかお前の足元にビックマネー　叩きつけてやる！』とか啖呵切って出たのにこれだよ　さすがに

最近ちょっと自信なくなってきたところだ。

弥治郎　おいおい、そこは堂々としてないと役者　いや男の価値が下がるってもんだ　大丈夫だって　絶対流行るってかぶき踊り。流行って流行って　いつか灰皿にテキーラ入れて飲ませたりするって！

市之介　本当にお前の言うことはわからないな　まあいいか、その新聞だっけ？　それが売れるようになったらかぶき踊りのこといいように書いてくれよ。

弥治郎　それは出来ないな　芸能関係との癒着はやらない主義なんだ。流行らせたら自力でがんばんな。

市之介　へいへい……飲みにも行ってくるかな

弥治郎　今からかい？　お天道様まだ高いぜ？

市之介　飲まなきゃやってられん

弥治郎　そうか。おい（何か投げてよこす）。どうせツケが溜まってるんだろ？　それで少しは返しとかないと今度は店を追い出されるぜ。

市之介　恩に着る。

弥治郎　出世払いだ。売れたら新聞宣伝してくれ。

市之介　癒着はしないんじゃないのかよ。

弥治郎と市之介　それぞれの方角へ退場

夜　明かりを持って立つ見張り。

前田玄以登場

見張り達　殿！（かしこまる）

玄以　そのままでよい。それよりどうだ？

見張りA　今のところ異状なしです。しかし、本当に来るのでしょうか？

玄以 奴なら必ず来る。いいか、相手は神出鬼没。誰もその姿を見たことのない大泥棒だ。一瞬も油断をするなよ。

見張りB お言葉ですが前田様、このように厳重な警備をしているのです。普通の神経をしているものなら諦めると思いますが。

玄以 アレが普通の神経をした盗人だと思っているのか貴様は？

見張りB いえ、そういう意味ではなく……。

玄以 とにかくだ、この警備には我々の威信がかかっていると思え。これ以上奴めに……。

爆発音

玄以 やはり来たな。

見張りA あの音は北門の方だ。

見張りB 行くぞ！

玄以 石川五右衛門……貴様を捕まえるのはこの京都所司代、前田玄以様だ！

暗転

謎の六人組に囲まれている市之介。

市之介を放ったらかしで言い争っている。

二 どういうことだこれは？ どうしてこいつがいる？

六 目を放した際に荷台に乗ったんじゃないか。

二 その後ちゃんと荷台を確認しなかったのか？

四 したわよ？ ちょっと荷物の重さが増えてるけど、まあ誤差の範囲内かな〜て

二 人一人の重さが誤差の範囲ですむか！

五 そうですよ、そういうところ大雑把なんだから。

四 誰に向かって言ってるのよ？

ギャーギャー。

七 ちょっと静かに 誰が悪いとか言い合ってる場合じゃないでしょう？
三 そうですよ。とりあえず、彼に聞いてみませんか。一体何者な

明かりがつくと、一同市之介を見ている。

二 貴様は何者だ？ どうしてここにいる？

市之介 そっちこそ誰だよ？ 大体、ここどこだよ？

二 聞いているのはこっちだ！ 場合に寄っては容赦せんぞ！

三 まあまあ、(市之介に)あなたもちゃっちゃと答えたほうがいいですよ。我々若干ピリピリしてますからね。事と次第によ

四 はいはい、私実験に使いたい！

五 あ、ずるい！ 僕だって……

四 こんなのは早い者勝ちよ。

五 あなたはいつだってそうだ。言ったもの勝ちだなんて道理に反します！

六 おいおい、ここで喧嘩するなよ。ほら、お前からも何とか言ってくれよ。

市之介 俺が何言うんだよ？ あんたらが誰かも知らないのに。ったく、なんか汗が出てきたぜ。(懐に手をやる)……ん？

出てきたのは金塊。

一同 あー！

市之介 これ、金か？ そうだ、俺は確か飲んだ帰りで、それで眠くなって

きたから「おお、ちよつどいい段差があるから寝っ転がるゝん？ 何か冷たいものがあるぞ。ああ、これはヒンヤリして
て気持ちがいいやZZZZZZZZZZ」ってなったんだ。これあの時のか、道理で冷たいはずだ。

二 返せ、それは我らのだぞ。

七 いえ、民のものです。そのために一度私達に返してください。

市之介 返せって言われても、これがあんた達のものだって証拠はどこにあるんだよ？

六 証拠なんかあるか、それは俺達が盗んだものなんだから、俺達のものだ！

市之介

盗んだ？

四

睦彦、余計なこと言わないでよ。

睦彦

そっちこそ何俺の名前言うてるんだよ？ 素性ばれないように互いの名前は呼ばないって話じゃなかったのか？

四

あ、しまった！

市之介

ちよっと待った！ たしか昨日は所司代の連中が街のいたるところで物々しい警備をしてたって飲み屋で聞いたぞ……も

しかしてあんた達、あの石川五右衛門の……？

一同

ギク！

三

妙に察しいいですね、この人。

二

やはりここで始末しよう。

七

おやめなさい！

二

しかし姫様、こやつどこぞの密偵かもしれませんぞ、今は大事の時、不安の芽は早いうちに摘み取らねばなりません。

市之介

姫様？

二、市之介に斬りかかるが逃げ回られる。

二

ちよこまかと、このネズミめ！

市之介

誰がネズミだ！ これでも俺は、未来の大役者よ！

一同

役者？

二

ふざけるな、お前のような役者がいるか？ 私はこれまでそれなりに

舞台を見てきたが、お前など見たこともないぞ。

市之介

未来のって言ったたる？ これから有名になるんだって。

二

言い訳とは見苦しい。それよりもここは後腐れなく。

七

仁衛門、やめなさいと言ってるでしょう！ そんなことより皆さん、この者は自分のことを売れない役者だと言いました。

市之介

売れない、は余計だ。

七

ということは、予てから話していたあの件を実現する絶好の機会ではありませんか？

仁衛門

ですが姫様

七 私達はこの者に盗人だということを知られてしまいました。なら選ぶ道は二つ、「口を封じる」か「仲間にして巻き込

む」かです。私は不必要な血が流れることを望みません。

仁衛門 ……姫様がそういうのでしたら、お前達もいいな

一同 (頷く)

市之介 え、どういふことだよ？

四 一言で言つと「仲間にならないなら殺す」よ。

市之介 一言過ぎる。

三 更に言つと「事情は話すが聞いた以上は後戻りできないぜ」ってことです。

市之介 それもう選択肢ねえ。

七 ではお話ししよう。

市之介 いや、俺の意志は？

七 あなたの察したように、私達は「石川五右衛門」です。

市之介 何だやっぱり……え、「私達」？つまり石川五右衛門ってのはあんた達盗賊団の名前だってことか？

七 世間では石川五右衛門を神出鬼没、誰もその姿を見たことがない謎の大泥棒だと呼んでいるそうですが、当然です。厳密に

は石川五右衛門という人物は存在していないのですから。

市之介 なるほどな。でもなんでまたそんなことを？それにあんた姫様って……。

七 ……それを聞いてしまうのですね。

市之介 あ、俺自分でさらに深みにハマった？

七 私は明智家臣斎藤利三が娘、名を福と言います。

市之介 明智家の斎藤といえ……本能寺で織田信長を討った謀反人じゃないか？

七 謀反人？……父上はいえ光秀様は秀吉に謀られたのです！

市之介 謀られた？

仁衛門 あの晩本能寺には信長様ではなく謀反を企む徳川家康が逗留している、そう秀吉から文が届いたのだ。しかしそれは全くの

デタラメ、あの男は光秀様に主人殺しの罪をかぶせ信長様の積み上げてきたものを全部かつさった。我らが泥棒だとい

うのならあの者は天下一の盗人だ。

市之介 それとその姫さんが泥棒やつてることに何の関係があるんだよ？

仁衛門 豊臣の世を揺らがせ、亡き主君そして父君の無念を晴らすためだ。義賊なら経済的に打撃を与えつつ、民衆を味方につける

ことができる。だが、それをお福様がやっていると知られる訳にはいかない。

市之介 それで架空の泥棒、石川五右衛門か。（一同を見て）他の連中は？

仁衛門 この者達も形は違えど、この豊臣の世で不自由を強いられてきた者達だ。さて、事情は話した。仲間か死かこの場で決める。

市之介 おお〜と、その前に聞かせてくれ。あんたら俺に何させたいんだ？俺が役者だと何か関係有るのか？

七 ……あなたに石川五右衛門をやっていたいだきたいのです。

市之介 俺が石川五右衛門を？

七 今までは姿を見せないことで謎の存在としてやってきました。しかしそのせいで私達を騙る偽物が出てきたと聞きました。彼らは名を騙って罪を着せるだけならまだしも罪もない者達から盗み、時には命を奪うと……。

五 だから、本物の石川五右衛門が姿を表す必要が生まれたんですよ。

四 それに民衆を味方につけるにはやっぱり姿を表さないとね。海の方この言葉でシンボルってやつ？

市之介 そんなことなら、あんたらの誰かがやればいいじゃないか？（仁衛門）あんたなんか、恰幅よくていかにも「武者！」って感じで見栄えするぜ？

仁衛門 それは出来ん

市之介 なんで？

仁衛門 ……人前に出るだなんて……恥ずかしいし……。

四 仁衛門様は海の方この言葉でトゥーシャイシャイボーイなのよ。それに他の男どもじゃ……ねえ

市之介 それで、役者ねえ

仁衛門 今度こそ全部答えたぞ。どっちか決めるのだな。さあ答える。仲間か死か。さあ！

一同 さあ！

市之介 一つだけ条件がある！

仁衛門 ……言ってみる。

市之介 石川五右衛門がどんな奴か、どんな話し方でどんなふるまい方か、それは演じる俺が全部決める。それが条件だ。それを飲むって言うなら、俺も仲間に入ってやる。

一同 同顔を見合わせるが、

七 分かりました。皆さんもその条件でいいですね？

仁衛門 姫様が言うのなら。

四 異議なし。

睦彦 そもそも俺達が出来ないって話だから、それに注文を挟む気はないさ。

五 です。

三 姫様のお言葉のままに。

七 ようこそ盗賊団石川五右衛門へ、えっと

市之介 よろしく、姫さん。

七 私のことはここでは奈々緒とお呼びください、どこで誰が聞いているかわからないので

仁衛門 齋藤家に使えてきた。今はお福……いや、奈々緒様が主君だ。

三 参蔵です。次に盗みに入る場所の下調べとあとは連絡係ってところかな

四 志摩よ、盗みに使う道具は私が作ってるの。

五 志摩の弟で樹です。治療と薬担当です。

睦彦 大工やってたから建物の造りに関しては任せてくれ。あとは軽業もちよつとやる

奈々緒 新しい一員も加わりました。豊臣の世を潰すためにも、皆さん頑張りましょう！

一同 えいえいおー！

久美 うるさーい！

久美登場

久美 何やってるか知らないけど、大の大人が真っ昼間から大声あげてるんじゃないよ！

睦彦 おい久美、お客さんが来てるんだから。あ、こいつ俺の女房で久美

っていうんだ

久美 「何が女房で久美っていうんだ」よ。亭主面したかったらもっとしやんとしてみなさいよ（つねる）！

睦彦 いててて……

市之介 （睦彦に）ここってもしかしてあんたの家？

睦彦 どこで誰が聞いているかわからないからな ウチの一室を貸してるんだ。

久美 一室とか気取ってるんじゃないよ こんな貧乏長屋しか借りれないような稼ぎのくせに。

市之介 京を騒がせている大泥棒の隠れ家が貧乏長屋かよ。

仁衛門 奥方 話は終わったのでわしらは帰らせてもらうよ。(包みを渡す) 部屋の使用料だ いつもありがとよ。

久美 これは仁衛門さん こんな汚い部屋でよかったらいつでもお使いくださいな。

市之介 芝居の稽古で会議室とか借りてるみたいだ。

久美 これから昼ご飯にするのですけど、皆さんいかがですか？

仁衛門 いえ 我々は行くところがありますので、行こうか、奈々緒

奈々緒

志摩 私達も研究の続きがあるから、樹 帰るよ。

樹 はい、姉さん。

参蔵 では次の定例会議は来週ということで、市之介さん、これに給与や福利厚生について書いてあるので目を通しておい

さい。

奈々緒達退場 残ったのは市之介と睦彦。

睦彦 飯 食ってくか？

市之介 ……ゴチになります。

睦彦・市之介退場

伏見城内。

秀吉登場

秀吉 どこだ どこに行つた。 ……ここか！

隠れていた茶々を引っ張りだす。

秀吉 ほーら 捕まえたぞ。

茶々 きゃ〜。見つかったやいました〜。

秀吉 当たり前だろう。この伏見の城はわしがわしのために建てた城だ。隠れることができるような場所など熟知しておるわ（半ヤッキヤウフフ）。

茶々 もう秀吉様 そんなに大声を出されたら拾丸が起きちゃいますね。

秀吉 おお そうだったそうだった。やっと寝てくれたのだ。起こしたら可哀相だ。

茶々 それに、拾丸が起きてしまうと私は母親に戻らないといけません。今こうしてあの子が寝ているときだけ私は淀ではなく秀吉様の茶々でいられるんですよ？

秀吉 茶々……。

茶々 秀吉様……。

秀吉 茶々……。

茶々 秀吉様……。

秀吉 茶々……。

茶々 秀吉様……。

三成が入ってきてその様子を見ていたが、

三成 よろしいでしょうか？

秀吉 ！ ……三成か、いつからそこにいた？

三成 「ギヤッキヤウフフ」あたりからでしょうか。

秀吉 結構前からはないか、いたのならもっと早く声をかける。

三成 邪魔をしては悪いかと思いましたが、やはり早いうちに報告すべきかと悩みました。その間一分三十秒といったところで…

秀吉 ……
もうよい、話せ。報告があるのだろうか？

三成 またしてもやられました。石川五右衛門です。先日献上された金銀 およそ三百貫（およそ一トン）綺麗さっぱりです。
秀吉 何だと？ ええい、前田の奴は何をしていたのだ？

三成 自ら陣頭指揮を取り警備にあたっていたそうですが、蔵の壁を吹き飛ばす火薬の音で駆けつけたところ、すでにそこは跡形もなかったとのこと。

秀吉 あれだけの金をそんな短い時間で運び去ったと？ そんなことありえない。

三成 しかし、そのありえないことをやってのけるのが石川五右衛門です。今までの報告もご覧になられたでしょう？

茶々 その……狂言というのではないのですか。石川五右衛門に盗まれた

ということにして金を我が物にしてとか……申し訳ありません 女

が口など挟んで

秀吉 いいのだ。女であるお前のいる前でこのような話をしているわし等が悪い。それに茶々のいうことも最もだ。三成

三成 はい、前田殿もその可能性は調べておられたようです。たしかに二・三件の狂言、それと石川五右衛門に見せかけた別の盗

人の仕業はあったようですが、そのほとんどが石川五右衛門本人の盗みに間違いないだろうとのこと。

秀吉 そうか。あいつは馬鹿だが無能じゃない。その調べは間違いないだろう。

三成 あの方の評価はともかく、このままでは秀吉様の威信にも関わります。関白の位は譲られど、今もなお天下人である太閤殿

下が盗人一人どうにもできないとなれば……。

わかっておる。わしの威信はすなわち生まれてきた子の威信でもあるからな

なら、どうされるのですか？

三成 三成 お前が行け？

はい？

三成 それと謹慎しているあいつを、清正を使え

秀吉 加藤殿を？ 本気ですか？

三成 お前とあいつとの間の感情はわかっている。その上で、あいつを使いこなしてみせる。お前とあいつ、そして最低限の手勢

だけ引き連れて前田に力を貸してやれ

三成 ……わかりました

秀吉 なら行け。わしはすることがあるのでな。のう、茶々

茶々 やへだ、秀吉様ったら

三成 殿

秀吉 何だ？

三成 言い忘れておりましたが、北政所様が来られております。秀吉様をお探しでした

秀吉 何、ねねが？

ねね登場

ねね 太閤殿下、こちらにお越しでしたか。ずいぶん探したのですよ。

秀吉 おお、これはご機嫌麗しゅう。遠く大阪からわしを訪ねてくれたとは何用ですか？

ねね 何用？ まさか太閤殿下ともあるうお方が、私との約束をお忘れと？ 先月大阪まで会いに来ていただけるといってお約束だったはずでは？

秀吉 あ……。

ねね なのに待てども待てども一向に来られない。聞けば伏見の城中駆けまわってなにか探している様子だとか。で、お探しのネズミは見つかったのかしら？

秀吉 あ、ねね、忘れていたとかそういうのではなくてな。その、なんだ……。

ねね とーきちろ。

秀吉 もう、その名前で呼ぶなよ。ほら、家来だって見てるしさあ。

ねね とーきちろー シット。

秀吉 だから

ねね とーきちろー シット。

秀吉 (おすわり)

ねね とーきちろー ダウン。

秀吉 (伏せ)

ねね とーきちろー ハウス！

秀吉 (立ち上がって退場)

ねね では淀様、タクの主人をしばらくお借りします。あなたはウチの跡取りのお世話をしっかりとお願いしますわね。

茶々 ええ、貴女が出来なかった代わりに私が産んであげた秀吉様のお子ですから、それはもう硝子の珠を触るかのように細心の注意を払ってお育ていたしますわね。

ねね そうね、やはり女は子供を産んで育児に専念しないと。それ以外のことをする必要なんて全くないわねえ。貴女はその点よくお分かりよねえ？

茶々 ええ、勿論ですが、子供を産んで育てる、そんな当たり前のことすら出来ない方も世の中にはおられますわねえ。

二人
オホホホホホ……。
ねね
ではこれで

ねね退場

三成
では私もこれで

去ろうとする三成の手を茶々が取る

三成
……誰が見ているかわかりません。こういうことはお辞めください。

茶々
人払いくらいあの狒々爺がとっくの昔にしているわよ。それより、しばらくここを離れるんでしょ？ その前に相手くらいしてよ。

三成
淀様

茶々
茶々。そう呼べるのは天下人と貴方だけよ。どう、光栄でしょ？ あの人が来たせいでせっかく用意したお茶の用意が無駄になっちゃたわ。あなたが代わりに飲んでよ。

三成
淀様。私は秀吉様の命で盗人を捕らえに行かねばなりません。
茶々
で、その間私を放ったらかしにするつもり？

三成
放ったらかしも何も、私達はそのような間柄では……。
茶々
無いとでも？ 冷たいのね。そう言えちゃうんだ？ 私達二人の秘密を見ないふりして。

三成
貴方は破滅願望でもお有りなのですか？ 私達二人の秘密を見ないふりして。
茶々
破滅願望？ 私の望みとは全く対極の言葉ね。私は勝ち馬に乗りたいただけ。そして今その鞍に跨ってる。

三成
ならばご自重なさいませ。足元を掬われることになりますよ。
茶々
そうね、今から貴方が付き合ってくれるなら、黙ってようかしら。

三成
……わかりました。茶を付き合えばよろしいのですね？
茶々
ええ、こっちょ。

三成
茶々に導かれながら退場

市之介の修行。

仁衛門

これより、石川五右衛門の表方として活躍するための訓練を行う。お前のまわりは常に捕り方が群がってくる。そしてお前が注目的になっただけで間にわしらが盗みを行う。派手に暴れてもらわないと困るが、それと同時に捕まられても困る。わしらのことを喋られては困るからな。

市之介

で、どうしろと訓練って？

仁衛門

お前が捕まらないように鍛えてやる。はーっ！（棒で打つ）

市之介

痛い！

仁衛門

『痛い』じゃない。『ありがとうございます』だ！これぞ我が師から授かった「我々の業界ではご褒美です」の術だ！

市之介

ありがとうございます！

睦彦

これは京の街の地図だ。朱で塗ってるところが、今までに俺が仕事で引き受けた事がある屋敷だ。それぞれの屋敷には俺が面白半分で作った抜け道や隠し扉がある。まずはこれを全部頭に叩き込め。地図を覚えたら、次は仕掛けの場所を覚える。しかも、

縄跳び、バランス系のトレーニングを始める。

市之介

集中して覚えられないじゃないか！

睦彦

逃げながら地図をみる余裕はないぞ。体を動かしながら、常に頭は次に逃げる道を考える！

志摩

海の向こうの言葉で言えば体はホット、頭はクールになってくるね。

志摩がカラクリを持ってきて市之介に装着させる。

市之介

これは？

志摩

この穴から蜘蛛の糸みたいにネバネバした糸が出るから、それを石垣や高い木に向かって撃つ。そしたらあとはこのカラクリが糸を巻き取ってそこまでビューンと。

市之介

おお、それはすごいな！

樹 僕は別のアプローチから考えましたよ。(注射器を出す)特殊な光をあてて育てた蜘蛛の汁です。これを体に打てば体質が

蜘蛛のようになってカラクリなしで腕から糸が……。

市之介 俺がなるのは五右衛門で、蜘蛛の化け物じゃないぞ！

志摩 そうよ、あんたはどうしてそういうも人の体をいじろうとするの？ 人が人のままで限界を超える、それが科学なのよ？

樹 姉さんこそ考えが古いんだよ、人が人の枠を超えて進化する、そのための化学(非誤字)だよ！

市之介 今お前が超えさせようとしているのは人道の枠だ！

志摩 市之介は私のカラクリで飛ぶの！

樹 いーえ、僕の薬で飛ぶんです！

市之介 俺の意見も聞けよ！

樹 なら姉さんこうしよう、市之介さんはカラクリで飛ぶ、そして首の骨が折れないように、僕がこの注射で骨を強化する。

志摩 ……そこに気付くとは、やはり天才か。

樹 姉さんほどじゃないよ、さて意見が一致したところで……(市之介をみる)。

市之介 逃げる、追う姉弟

参蔵登場

参蔵 皆さんお集まりでしたか。次の盗みが決まりましたよ～！

一同 集まってくる。

参蔵 次の盗みは太閤の口利きで大きくなった材木問屋あおい屋です。蔵には先日太閤より支払われた金が仕舞われています。

志摩 それを盗むってわけね。

参蔵 勿論それも頂きます。そしてもう一つの目当てがこちら、金と同時に下賜された楽長次郎作の茶器

仁衛門 長次郎といえば、千利休に見出された名陶工じゃないか。物によつてはそれだけで戦の種になりかねない品物だぞ。そんな

ものを一商人にくれてやったというのか？

睦彦 あおい屋はあの伏見の城を建てる時に材木の供給を一手に引き受けた。それが太閤に気に入られたんだろ？

参蔵 ええ、気に入った相手になら何を与えても惜しまない、懐の大きなお方ですよ。

仁衛門 お前は誰の前でそんなことを言っているかわかっているのか？

参蔵 ええ 勿論 同時に 敵と認めた相手には容赦もなく何もかも奪う。我々は程度の差はあれ あの男に敵とみなされ……いや 踏みしめる砂利程度にしか思われてない者達です。だから 砂利は砂利らしく足元をすくってやるうじやないですか

市之介 砂利はいいんだけどさ 茶器なんか盗んでどうするんだ？

参蔵 そっちは面目潰すだけなんで 使い道はあとで考えます。それより大事なのは 市之介さん あなたにそれを盗んで欲しいんです。

市之介 俺が？

参蔵 ええ 太閤殿下から下賜された茶器を派手に盗んでみせることで俺が本物の石川五右衛門だと 世間に見せつけようというわけです。市之介さん 出来ますか？

市之介 ……おう、この市之介様の一世一代の名演技 連中に見せてやるぜ。

参蔵 名演技もですが、捕まらないように頼みますよ。いざ盗みが始まったら私達は手助け出来ないんですからね。

市之介 わかってるよ 修業の成果を活かすさ。

仁衛門 して 決行は？

参蔵 明日の晩というのはどうでしょうか？

仁衛門 いいだろう。志摩 荷運びの車は？

志摩 整備は万全よ。馬力あげたから、こないだより早く走れるね。

仁衛門 樹

樹 爆薬に眠り薬その他もろもろ 数は揃ってます。

仁衛門 睦彦

睦彦 あそこの屋敷なら造りは知ってる。逃げ道も完璧だ。

仁衛門 奈々緒様

奈々緒 はい。新生石川五右衛門、これが初めての盗みです。皆さんしっかりやりましょう。……市之介様

市之介 心配すんな あんたの期待には応えてやるさ。

奈々緒 では 決行は明日の晩 場所は材木問屋あおい屋 目当ては金と茶器 皆さん頑張つて盗みましょう！

一同 えいえいおー！

久美 うるさーい！

暗転

決行当日 現場に三成と清正が現れる

清正 でここにその石川五右衛門とやらが来るというのか？

三成 奴は太閤殿下に關係の深い商人を狙う。伏見の城の材木代が先日払われたここが一番可能性が高いとの判断だ。
清正 それで連日の警備な。警備のものに払う金だけで大出費だな。素直に盗まれた方が損害少ないんじゃないか？
三成 その警備ということで謹慎の身だったあなたが外に出られるのだ。清正殿

玄以登場

玄以 これはわざわざご足労頂きかたじけない。で、そちらが……。

清正 加藤清正だ。（玄以の視線を感じ）それが何か？

玄以 いや、話に聞くお姿と少し違う印象を持ったもので。

清正 戦場では鎧に身を包むし、公の場ではそれなりの物を纏う。今はお忍び。見る人によっては違って見えることもある。

玄以 ならば、そういうことで……さて、わざわざご足労いただいて申し訳ないが、石川五右衛門捕縛はあくまでわれら京都所司代の役目。手は出さないでもらいたい。

三成 我らは太閤殿下の命でここに来ている。その意味を分らないと？

玄以 それを踏まえた上で我らに任せてほしいと言っている。

三成 「任せられない」と太閤殿下が申されのです。

玄以 しかし、我らにも治安を守る所司代としての意地がある。

清正 事を成せないくせに意地だけ立派な。そんなもん野良犬に食わせてしまえばいい。面子に関わるというのなら、石川五右衛門を捕らえたのは所司代ということにする。そもそも我らは身元を隠している身だからな

玄以 ！

三成 わかりました。とりあえず今夜は我々は手を出さずにあなた達の手並みを見せていただきます。その上で問題点を洗う
ほうが我々もやりやすいでしょうから。

玄以 ……心遣い、感謝する。

爆発音

玄以 ! おのれまたしても……我々としては今夜こそ捕まえてそちらには手ぶらのまま帰って頂きたいものだな

玄以退場

清正 行かないのか?

三成 ……伏見を出るときに聞いたのだが、実はこのあおい屋には、もう一つ宝がある。太閤殿下が下賜された長次郎の茶器だ、それがどうした? 石川五右衛門が盗むのは金だろう?

三成 人によっては蔵の金より価値があるものだ。それに、もし私が盗人なら……一つある宝は両方盗む、その茶器はどこに?

清正 床の間に飾るか……少なくとも金蔵には入れないだろう。そして、爆発音は金蔵の方でのみ鳴った、警備をそっちに引きつけるための陽動か?

三成 ……残った警備を連れて向かおう。

三成・清正退場

忍び込んだ市之介。茶器の箱を小脇に抱えている。

市之介 まさか床の間の裏に宝を入れるための隠し収納があったとはな。睦彦の言う通りだった。さて、あとはこれ、何かスイッチ（チ）を押せば派手な明かりと音が出て捕り方が集まったところで俺が決めてみせると……その前にちょっと練習しようかな。

。（発声練習して）『あゝ、おっれが天下の……』

捕り方を引き連れて三成達登場

市之介 まだ練習中なのにな?

清正 おい、あいつが持っているの、

三成 やはり狙いは茶器か。石川五右衛門というのはお前か？

市之介 ……こうなりやぶつつけ本番だ。おう！俺こそが天下の大泥棒 石川五右衛門様よ！この面、ありがたく拝みやがれ

（見得を切る）！

三成 なるほど、覚えておこう。今まで誰も見たことのない大泥棒の姿をこの私が最初に見たのだからな

市之介 挨拶も済んだところで、俺様は帰らせていただくぜ。秀吉が下賜した樂長次郎、この元祖 本家本元 正真正銘の石川五右衛門が、ご覧のとおり、見事に頂いたぜ（見得を切る）。

清正 何一々変な動きしてるんだ？もういい、捕まえるぞ

三成 いや、我らは手を出さない約束だ。（捕り方に）ここは所司代の君らで捕まえる

捕り方かかっていく。攻撃が市之介に当たるが、

市之介 ありがとうございます！……本当だ全然効いてない。

捕り方の攻撃は一向に効いてない。

清正 ええい、見てられん。貸せ！

清正が捕り方から棒を奪って攻撃

市之介 結構痛いけど……ありがとうございます！

清正 この清正の攻撃を結構痛い程度だと？

市之介 清正？……誰か知らないけど、これ以上食らうのはまずいな。ポチッとな

市之介がスイッチを入れると閃光と音 一同怯む

市之介 これでいざ、さーらーばー！（見得を切る）

清正 待て！

市之介 秀吉の世が続く限り、石川五右衛門は必ず現れる。次の盗みでまた会おうぜ！

市之介退場

清正 くそ、逃げられたか。（捕り方に）おい、何をぼつつとしている。追っぞ！

清正 捕り方を従えて退場

三成 秀吉の世が続く限り……なるほど、そういうことか。

三成退場

京の街 弥治郎が新聞を売っている。

弥次郎

さあさあ、聞いてらっしゃい見てらっしゃい！ お忙しいそのあんたも、そこのご婦人も立ち止まって聞いている分にはただで損のない話だ！ 太閤殿下の御治世で天下泰平の世の中を荒らして騒がす大泥棒っていえば誰か知ってるかい、そうそいつは石川五右衛門だ！ 昨夜は材木問屋あおい屋に忍び込み、金銀財宝を盗み出しては京の街へとばら撒いた！ それだけじゃねえぜ、今まで誰も姿を見たことのない五右衛門が、とうとう姿を現してもう一つのお宝長次郎の茶器を盗み出したってんだから驚きだ！ 詳しいこと聞きたいかい？ なら新聞だ、そこら辺詳しいところがここに余すところなく書いてある。おーっと、ここからはただじゃないぜ、さあさあ買った買った！

町民群がって新聞を買う。

参蔵やってくる。

参蔵

大反響ですね。

弥治郎

おう、お陰でこの通りだよ。あんたのおかげさ。（包みを取り出し）残りの半分だ。

参蔵
ありがとうございます。

弥治郎
礼をいうのはこっちの方さ。あんたの情報のおかげで自分でも惚れ惚れするような記事が書けた。

参蔵
それは、あなたの腕って奴でしょう。

弥治郎
ははっ、事実でも褒められると悪い気がしないな。……しかしあんた、あんな情報をどこから仕入れてきたんだ？

参蔵
情報というものは、情報元を明かさないと価値があるんですよ。

弥治郎
……違うない。

参蔵
また新しい情報が手に入ったら

弥治郎
勿論買わせてもらうぜ。いつでも言ってきたくれよ。

参蔵
そうしますよ。

弥治郎
しかしいきなり『石川五右衛門の情報買いませんか？』と来られた時はつい身構えちまったが、俺にはすぐにわかったよ。

俺はこう見えても人を見る目だけはあるんだ。

参蔵
……そうですか、ではこれで。

参蔵退場
その様子を市之介が見かける。

市之介
おい弥治郎

弥治郎
おお、市之介見てくれよ。新聞が大評判なんだ。

市之介
ああ、それはいいことだが、そんなことよりさっき今のあいつ……。

弥治郎
あいつって重蔵さんのことかい？

市之介
重蔵？ 何を話してたんだ？

弥治郎
あの人は貴重な情報提供者って奴さ。まるで見てきたかのように石川五右衛門の盗みの情報を教えてくれたんだ。だからこ

れを見てくれ。今までより数段面白い内容が書けたんだよ。

市之介
見てきたって……そりゃあさうだろうね。

弥治郎
それと、売り口上も工夫してみたんだ。今まではさあ読めって感じで押し付けてただけだけど、相手の興味を引く言い回し

とか考えてさ。これも重蔵さんから聞いた石川五右衛門の節回しをちょっと参考にしたんだ。『俺こそが天下の大泥棒、石

川五右衛門様よ〜』

市之介
違う違うこうだ。『おう！俺こそが天下の大泥棒、石川五右衛門様よ！』

弥治郎 おへ、さすが役者！ 上手いじゃないな ってなんか怪しいぞ 市之介まさかお前
市之介 ギク。

弥治郎 今度のかぶき踊り、石川五右衛門をやるうとしてるな？

市之介 アハハハ、ジツハソウナンダ。

弥治郎 流行りの先端を掴んで行く姿勢、イエスだね！ 俺も負けてないぜ、新聞の次を考えた。

市之介 もう次かよ？ 新聞はどうするんだ？

弥治郎 新聞も同時進行さ。いいかい、ここに小さな鳥居を作る。疑問があつて困ってる奴がこの鳥居に疑問や今知りたいことを口

にして拝んでからくぐる。しかし小さいから中々くぐれない。その間に俺が集めた知恵袋達がそいつの疑問に答える。俺はこいつを「くぐる」と名づけたね。

市之介 「くぐる」……流行るのか？

弥治郎 絶対流行るね。流行って流行って、ろくに調べもせず人に聞こうとする奴は「くぐれカス」と言われちゃったりするね。

。さてと、こうしちゃいられない。鳥居を作る大工探さなきゃ。

市之介 ……大工なら知ってるぜ、長屋に住む睦彦ってのがいい腕だ。

弥治郎 ありがとう！

弥治郎退場

市之介 重蔵さんね……情報を売るだなんて一体どういうことだ？

参蔵 石川五右衛門の活躍を民に知ってもらうにはいい方法でしょう？ そのためにも新聞は売れてもらわないと。

市之介 それで情報提供者ってわけか。姫さん達はこのことは知ってるのか？

参蔵 いいえ、これはあくまで私の裁量です。情報の管理は私に一任されていますので。

市之介 で、広報活動のついでに小遣い稼ぎかい？

参蔵 これは鋭いことで。

市之介 なるほどね……何だか急に喉乾いちゃったな。

参蔵 ではまだ日も高いですが飲みに行きますか、私の奢りで。

市之介 悪いなへ、催促したみたいで。

市之介 参蔵退場

伏見城 ねねと茶々のダンスバトル

お互いダンスパートナーに秀吉を誘い合うが、最終的に二人で一つの舞を踊る

秀吉 おへ、ふたりとも見事だったぞ。このような舞を見ることが出来、天下人としての喜びを改めて噛みしめる事ができたぞ

ねね それはそれで

ねね・茶々 どちらの舞が優れておりましたか？

秀吉 だから、このような舞を見ることが出来、天下人としての喜びを改めて噛みしめる事が……わしは亡き信長公からも「サ
ル、貴様は知恵が回るが風流というものをわかってない。神も仏も一人の人間に二つのものは与えないということか」と言
われたことがあるくらいだ。わしには二人の舞が優れておることしかわからん（汗）。

ねね ……まあ、そういうことにしておきましょうか。

茶々 秀吉様からお褒めの言葉を頂けたわけですし、ところで秀吉様……。

茶々 秀吉を引っ張る。

茶々 ねね様はいつまで伏見におられるのですか？

秀吉 わしに聞かれても……あと二・三日もいれば気が済むんじゃないか？

茶々 ならお聞きください、「ねねはいつ大坂に帰るのか？」と。あの方に

居座られたらいつまでたっても茶々は秀吉様と二人きりになれませぬ

秀吉 そうは言うが……お前が一番大事なのは当然だ。しかしあれでもわしの正妻なのだ。わしは天下人として人の手本にならな

いといけない。そこを踏まえてわかつてはくれないか

茶々 ……分かりました。でも私にも待つ限界があることをお忘れにならないで下さいね

秀吉 わかっておる。あれの機嫌がいい時に出来る限りさり気なくそう誘導するから

ねね 秀吉様、こちらに

秀吉 おお、今度はこっちな。して、ねねの話は何だ？

ねね ここは住みやすい良い城ですね

秀吉 そうである。ここはわしが隠居後の終の棲家として建てた城だ。わしの住みやすいようにバリアフリーにもこだわって
た。

ねね そうですか。なら、私もここに住むことにしましょうかしら。
な

ねね お互いにいい年になりました。今のように伏見と大坂を行き来することもどんどん辛くなるでしょう。それなら私もここで
秀吉 それは……困る。

ねね あら、何が困るのかしら？ 夫と妻が共に住むことに何か不都合でも？

秀吉 ここにはすでに拾丸とちゃ……淀が住んでおる。そこにお前とお付がくればさすがに手狭になる。
ねね ならば、淀殿を大坂にやればいいでしょう。いくら信長公の姪御とはいえ今はあくまで側室。

秀吉 だからじゃよ。わしは天下人だ。天下人が側室に子供を産ませたら遠くに追いやったなど知られたらどうする？ わしは女
を子供を生む機械扱いしたと叩かれ、天下に顔向けができなくなる。わしは天下の手本、淀が世継ぎを産んでくれたのなら
それに報わねばならん。

ねね 随分立派な手本ですこと。

秀吉 ねね、お前とは共にここまで苦楽を共にしてきた。そんなお前だからこそ大坂を任せることが出来るのだ。今はここにおれ
ど拾丸が元服した暁には大坂に移る。それまで大坂を、天下を守ってほしい。わしが足輕同然の頃から添い遂げてきた恋女
房のお前にしか頼めないことなのだ。

ねね 口だけはお上手なこと。ですが、今はその口車に乗ってあげましょ。ここに住むことは勘弁してさしあげます。
秀吉 ……わかってくれて嬉しいよ。

ねね ですが、もうしばらくはここにお邪魔させてもらいます。そう、あなたが破った約束の分だけね。

三成登場

三成 失礼致します。

秀吉 三成～！ ……何かわかったのか？

三成 二つほど報告することが、

秀吉 申してみよ。

三成 石川五右衛門に盗まれた長次郎の茶器が見つかりました。

秀吉 どこだ？

三成 鴨川の下流に野良猫のたまり場に行っているところがあり、付近の住民が持ち回りで餌をやっていたのですが……。続ける。

三成 今朝一人の住民が餌をやりに行ったところ、猫達の餌の器の一つが……。

秀吉 世が世なら戦の種になりかねないあの茶器を、野良猫の餌茶碗にしたというのか？

ねね あら面白いじゃない。

秀吉 ねね！

ねね 誰が作るうが茶碗は茶碗よ。使い道はその人次第だね。天下の銘器で餌を食べる野良猫、石川五右衛門という盗人は随分洒落の効いたお方なのね。

秀吉 その茶碗が誰から盗まれたかが問題なのだよ。お前はわしが恥をかいても平気だということのか？

ねね 茶碗一つで恥をかって傾く天下なら、始めからお捨てになったらいいのです。人の目を気にするのなら怒らずに笑うものですよ。

秀吉 ……。

三成 傾くで、もう一つの報告を思い出しました。その石川五右衛門が私にこう言ったのです。『秀吉の世が続く限り、石川五右衛門は必ず現れる』と。

秀吉 わしの世が続く限り、だと？

三成 はい。すなわち石川五右衛門はただの盗人に非ず、明らかに今の豊臣の世を傾かせるために盗みを働いているのです。

秀吉 なんとということだ。豊臣の世はわしだけではない、跡継ぎである拾丸の世でもある。その盗人は忌々しくも、拾丸の世まで狙っているというのか。

茶々 秀吉様……。

秀吉 恐れることはない、お前もお前の子もこのわしが守る。のお、三成

三成 はい。豊臣の世を狙うということは、石川五右衛門は豊臣家に恨みを持つものである可能性が高いということです。

ねね 石田殿、その石川五右衛門というのはどんな方だったの？

三成 派手に着飾り、声を張って大きな身振り……一言で言えば、随分芝居がかった男でした。

ねね それはそれは、民からは人気が出そうな方なのね。

秀吉 お前はどっちの味方なのだ？

ねね 事実を言ったまでですわね。

秀吉 事実なら言っていないわけではない。よいのか？ この天下の豊臣が恨みによって狙われているのだぞ！

ねね 恨み？ ねえあなたは天下人に上り詰めるまでに数えきれないほどの人間を踏みつけてきたのよ。信長公の敵を討ち、信長

公亡き後は同じ家臣であった柴田殿でさえその手につけた。

秀吉 戦国の世の常だ。誰かが天下を取らねば戦は終わらなかった。

ねね 誰かを踏みつけないと天下が手に入らないのが世の常なら、それで恨まれるのも世の常というものでしょう。それを承知の上ではなかったのですか？

秀吉 うるさい！ 三成 一刻も早くその盗人を捕まえる。地獄の方がマシだというくらいの残酷な死に様を天下に晒し、豊臣に齒向かうものの末路として示してくれる！

秀吉退場

ねね あの人も随分小心になられたわね。石田殿 あなたは今後の豊臣を支える方の一人です。盗人一人に振り回されずに、大局を見すえていなさい。

ねね退場

茶々 それで 捕まえられそうなの？

三成 全力は尽くします。

茶々 全力じゃ足りないわ。石川五右衛門だかなんだか知らないけど、せ っかくここまで上り詰めたのよ。この天下をくれてやるわけにはいかないわ。

三成 淀様

茶々よ。…私はね。母上とは違うの。あの人みたいにはならない。私は勝ち馬に乗りたいの。

三成 落ち着いて下さい。

茶々 そのためにあの猿…私の父親を二度も殺した男に抱かれた。知ってる？ あの人は今でも私を通じて母上を見ている。私の中にある母上の面影を抱いているのよ。

三成 そのようなことはありません。秀吉様はあなたを十分大事にされておられます。

茶々 そうね。私の望むものは何でもくれたわ。（お腹に手をやり）たった一つ以外はね。

三成 茶々様はお疲れなのです。だからそのようなことを
茶々 何を人事のように言ってるの？ 拾丸が私と誰との子供なのか、あなた自身が一番わかってるくせに！

間

三成 秀吉様は長らくお子に恵まれなかった。このままでは秀吉様亡き後再び戦乱の世が来る恐れがあると案じた私は、あなたの誘いに乗りました。あなただって誰よりも早く天下人が欲しいというだけで私に声をかけたのではないのですか？

茶々 そうよ、他の誰よりも豊臣の世の行く末を案じるあなたと他の誰よりも早く世継ぎの子が欲しかった私……なら秘密を共有出来ると思って声をかけた。あなたと私達は天下のために一つ秘密を共有しただけの間柄

三成 ならばですが、何故このように私の元に踏み込もうとされるのです。私とあなたとの間にあったことなど忘れてしまえばいいのに。

茶々 あなただけだからよ、私を私のままで見てくれる人は……。

三成 茶々様……。

茶々 しばらくこうしてなさい。

暗転 一瞬誰か（清正）の人影が浮かぶ

新聞を売る弥治郎

弥治郎 さあさあ、石川五右衛門がまたやったよ！ 今度は太閤びいきの公家の屋敷だ！ 屋根に上るといつもの決め台詞『秀吉の世が続く限り、石川五右衛門は必ず現れる。次の盗みでまた会おうぜ！』しびれるだろう？ あとはみんなお待ちかねのスーパ―義賊タイム、屋根の上を縦横無尽に駆け巡りながら盗んだ金銀を景気良くばらまいた。この大泥棒の事をもっと知りたいかい？ なら新聞だ！ 石川五右衛門のことが読めるのはこの新聞のみ！ 好評につき大増刷、今なら定期購読でまとめるバイナダーなんかつけちゃうぜ。

玄以登場

玄以 新聞売りとはお前か？

弥治郎 はい毎度！

玄以 連れて行け

弥次郎 ええええええええ！？

弥治郎 所司代に捕まる

……時間は経過し

なんとか釈放された弥次郎と 市之介

市之介 それで 新聞が発売禁止？

弥治郎 ああ 太閤殿下に仇なす盗人のことを、面白おかしく書くとはけしからんってさ。俺も抵抗したんだけどあまりゴネてると

五右衛門一味の疑いで牢屋に閉じ込められていうし。

そうか、まあ無事で何より。それで、どうするんだ？

市之介 新聞はおしまいだよ。顔も名前もバレちゃってるから今度目立つようなことしたらすぐ俺だって知られちゃう。はへ、こう

やって文化は政治に潰されていくんだな

とか言って、お前が諦めるようなタマか？

弥治郎 ……わかる？ 今回の失敗を踏まえて俺は考えたね。誰が提供しているかってわかるから捕まるんだ。なら誰がやってるか

バレなきゃいい！ 例えばここに衝立を用意する。何か情報を知りたい奴はその衝立の前で待つんだ。すると何か情報をも

伝えたい奴が衝立の向こうに来て「昼飯なう」とか呟く。お互い誰が言ってるのか誰が聞いているのかわからない、けど情報

は伝わる。俺はこれを「ついたたーて」と名づけたね

市之介 「ついたたーて」ねえ 流行るのか？

弥治郎 流行るね。流行って流行ってどっかの店員土下座させて炎上するね！

市之介 よくわからんがそうなのはいいじゃないかな。なんとなくだけど。……面白そうだが、誰が喋ってるかわからない事

をわざわざ聞きたいもんか？

弥治郎 知りたい奴はどこにでもいるさ。まあ市之介の言うことも最もさだな。それで俺はもう一つ考えた。それがこれだ（紙の束を出す）。俺と秘密裏に契約した奴にこれを渡して、ここにそいつが広めたいことを書いてもらう。そしてこの内容は同

じ契約者同士しか読めないように俺が管理する。つまり俺と契約した奴だけがお互いの情報を共有できるんだ。そしてこの表紙には誰の情報が書かれているかわかるように契約者の似顔絵を書く。俺はこれを「顔本」と名づけたね。

なるほど、表紙に顔があるから「顔本」ねえ。

（市之介に渡す）お前も作ってみるよ。ここに公演情報とか載せるんだ。すると書いたところに「いいね！」って感じで読んだ奴の返事が書き込まれる。逆にお前に関する情報も書き込まれるんだ。こいつも流行って炎上するぜ！

いや、燃え上がったらだめだろ。

市之介
弥治郎
こうしちゃいられない。契約者を増やさないとね。……ここだけの話。有名人とかにも契約してもらってお忍びの話とか書いてもらう予定なんだ。

弥治郎退場

入れ違いに五右衛門一味が登場して。ここは隠れ家になる。

奈々緒
「顔本」、ですか。

市之介
ああ、これに石川五右衛門の名前で登録するんだ。俺の目には浮かぶぜ。表紙にでーんと俺、いや石川五右衛門の顔が書かれた本をみんなが競って読む姿が。

仁衛門
その弥治郎という男は信用出来るのか？

参蔵
それは私が保証しますよ。自分の提供する情報で周りが盛り上がることを第一に考えている。ある意味最も公平な男です。その顔本ってのもいいアイデアですね。民衆の生の反響が見れるってことでしょ？

樹
逆に盗みのターゲットの情報もらえたりしてね。

志摩
でもさ、その情報が嘘や間違いだったらどうするんだよ？

市之介
一番大事なのは俺達何のために盗みをするのかアピールすることだ。ただ民のために金持ちを狙ってるんじゃない、大義がここにあるって。それに

参蔵
俺はもっと目立ちたい。

市之介
心を読むな！ みんなどうかかな？ 豊臣を倒すってことはこの時代が間違ってるってことだろ？ なら今はどんな時代なのか、視野を大きく持つべきだと思うんだ。

奈々緒
盗みに限らず、世直しとしてもっと世界を知るべきだと？
市之介
そこまで言うの大げさだけだな。

仁衛門 奈々緒様 どう思われます。

奈々緒 私は市之介様の提案はともいいと思います。

市之介 話が早くて助かるぜ。では早速石川五右衛門で契約を……。

奈々緒 ただし名前は石川五右衛門ではなく、「石川五右衛門が世に対して聞く」略して五右衛門世聞（せぶん）名義で契約します。

市之介 五右衛門、世聞？

志摩 いいんじゃない？ ちょうど私達七人だし。

睦彦 つまり世の中に対して聞くわけだな。世のために石川五右衛門はどうすべきか？」

樹 これまで盗んではばらまくの繰り返しでしたからね。それ以外で何か出来るのか。わかるといいですね。

参蔵 いいんじゃないですか、弥治郎さんには私から話をつけましょう。

仁衛門 （奈々緒に）五右衛門世聞 よい名前です。

奈々緒 はい。我らはただの盗人に非ず。世のため 天下を私欲で奪った豊臣秀吉を倒す。そう我らは

一同 五右衛門世聞！

久美 うるさーい！

一同シーン。久美退場

仁衛門 ところで話は変わって参蔵 例の件だが

参蔵 石田三成と加藤清正が秀吉の命で京都所司代に協力しているのは間違いありません。

市之介 清正って、前に俺が殴られた？

仁衛門 うむ、虎退治の猛将で怪力無双と恐れられておる。

市之介 あれが？ そんな雰囲気じゃなかったぞ。むしろ、女みたいだな。

奈々緒 みたいではなく、加藤清正は女性なのです。

参蔵 一部の者しか知らない話ですよ。それが女だと周りに知られると、色々不都合がありますからね。公の場に現れるのは影

武者です。

市之介 じゃあ何でお前が知ってるんだよ？

参蔵 企業秘密です。

志摩 清正もだけど石田三成って秀吉の右腕じゃない。そんな大物が？

参蔵 清正だって十分大物ですよ。

睦彦 三成と清正って言えば朝鮮の件で犬猿の仲だって誰だって知ってるくらい有名な話だぞ。そんなのが二人並んでたってことかい？

参蔵 それだけ 向こうも本気だったことです。

樹 僕達の存在を秀吉は無視できないところまで来ているということですね？

参蔵 ええ。とは言え 出来れば彼らとの対決は避けたいところです。前田玄以は無能ではないが マニユアル通りの仕事しかできない男。そこに付け込む隙がありました。しかし、彼らにはそういった隙はない。

市之介 でもよ、秀吉が虎の子の手下をだしたならそいつを出し抜けば秀吉に大恥をかかすことにならないか？

奈々緒 そうは言いますが市之介様 向こうは石田三成と加藤清正、いわば太閤秀吉の知と武をまとめて相手するのと同じなんですよ。

市之介 俺達が倒さないといけないのは秀吉本人だろう？ その手下ごとき恐れてどうするんだ？ 俺はやるぜ 石川五右衛門ここにありと京の街から全国に知らしめてやる。

仁衛門 うむ、その心意気やよし！ お前のその体には武士（もののふ）の心があったのだな すまぬ 実はわしはお前のことを軽薄な役者崩れだと思っていた。

市之介 崩れてねえよ役者だよ！

仁衛門 お前が石田三成と加藤清正という大物を引き付けてくれると言うとは思ってもよらなかった。この仁衛門、お前を見くびっていたよ。

市之介 はい？

志摩 なるほど、あの二人は俺様石川五右衛門が相手するからお前達は今まで通り盗みをやってくれと。

樹 感激しました、その犠牲の心まさに漢！

市之介 え、いやここは俺達七人いれば敵じゃないとか、努力友情勝利とか……。

睦彦 安心しな、骨は拾ってやるぜ。

奈々緒 ……私は市之介様のことを忘れません！

市之介 えへ。

参蔵 さて、とりあえずの方針としては所司代との警備の連携が出来てないあたりをつくように計画を立てるということで、次の狙いの当たりをつけておきます。三日後またここで。

一同退場 参蔵が最後に何か書き留めて去る。

三成と清正登場

三成 どうやら裏をかれたな。あちらは所司代の警備の方だ。

清正 何かあったらこちらに連絡をよこせと言ったのに。前田のやつこの期に及んでまだ意地を張るか。

三成 それもそうだが、あまりにも向こうの動きがあらさすぎる。こちらの動きは丸見えと思ったほうが良さそうだ。とにかく行こう。

清正 ところで、先日の伏見の城でのことだが……。

三成 伏見？

清正 いや、いい。今言う話題ではなかった。

三成・清正退場 入れ違いに玄以と所司代。

玄以 探せ探せ！ここまで逃げてきたのは間違いないのだ。草の根分けてでも探せ！

市之介 (屋根より見得) 草の根だって？地べたを這いつくばって探しても俺はみつからないぜ！

玄以 いたぞ！下から追い詰めるのだ！

見張りが下からかかるが、市之介の掛け声とポーズで動きが止まる。

玄以 どうした。かかれと言っておる！

見張りA それが前田様

見張りB 体が動きません！

玄以 何だと？

市之介 お前もだ(掛け声とポーズ)！

玄以 む！……動け！なぜ動かん！？

市之介　これぞ、不動金縛りの術！　では所司代の皆様　金銀財宝はこの石川五右衛門が今夜も　頂いた

追っかけがやってきて声援を送る　それに応える市之介

追っかけA　きゃ～五右衛門様よ！

追っかけB　顔本に書いてた情報通りね！　私達も書き込まないと

追っかけ　『五右衛門様　なう』！

市之介　秀吉の世が続く限り、石川五右衛門は必ず現れる　次の盗みでまた会おうぜ！

市之介退場すると金縛りが解ける　追って玄以達退場

伏見の城　報告を読んでいる秀吉

秀吉　（報告書を投げ捨てる）

ねね　（現れてそれを拾う）随分ご機嫌斜めのように

秀吉　お前も読めばわかる　三成の奴またしても盗人などに出し抜かれおって　これではわしの面目は丸つぶれだ

ねね　（笑う）

秀吉　何を笑う？

ねね　こないだからずっと面目とやらにこだわってなさる様子だったから

秀吉　わしは拾丸が元服するまでこの豊臣の世を更に固める義務がある　なのに盗人一人も自由にできないとなれば　一度は頭を下げた諸国大名が再び天下を狙うかもしれないのだ　伊達など未だにわしの首を狙っていると聞くぞ

ねね　誰かがあなたの天下の陰りを見るとするなら盗人を捕まえられないことではなく　そうやってムキになってるところだと思

うね　太閤殿下は未だに自分の天下が揺るぐのではないかと恐れているってね

秀吉　お前はこないだから何なのだ？

ねね　私は自分の夫にしっかりと欲しいだけ

秀吉　お前は気楽なものだな　わしがしっかりとしておれば自分の　天下人の妻としての地位は安泰なものな

ねね　いつ私が天下人の妻にしてほしいと言いました？

秀吉
ねね？

ねね あなたは何か勘違いされてるわね。私は別にあなたが天下人だから妻になったわけじゃなくて、単に惚れて一緒になった男が出世しただけ。豊臣の世が終わってあなたが落ちぶれたら、また足輕から一緒に始めればいいじゃない。私は一向に構わないわ。

秀吉 お前は……女はそれでいいかもしれん。だが男は違うのだ。ここまで上り詰めるために乗り越えて来たもの、踏みつけて来たものがある。そこまでして手に入れたものはそう簡単に手放せるものではない。

ねね それは男の望み。女の望みは夫がいつでも胸を張ってること、そしてそれを支えるのが自分であること。

秀吉 ……わしは胸が張れていないのか？

ねね 私はどんなに汚れてても「ねね、わしはこのままでは終わらないぞ」と言ってた頃のあなたが一番立派だと思いますね。

秀吉 何かを言いかけてやめて去る。

ねね そう、わたしはあの人とこの時代を面白おかしく生きていければいいだけ。あなたはどうかしら？

盗み聞きしていた茶々登場

茶々 豊臣の天下が終わろうとも添い遂げる覚悟があるかとお聞きですか？

ねね 大袈裟ね。あなたが一番に望んでいるものは何ってだけよ？

茶々 ……私の望みは、秀吉様が積み上げ未来に残したいものを守ることです。

ねね そう、なら私達喧嘩することないのかもね。

茶々 ……。

ねね 安心なさい、もうちょっとしたら私は大坂に帰るから。そしたらあなたの欲しいものは全部あなたのものよ。

ねね 退場。その背中を見送ったあとに茶々退場。

隠れ家の七人。

仁衛門 どういうつもりだ貴様！

奈々緒 仁衛門、やめなさい！

仁衛門 こやつ、盗みの最中に顔本に書き込みをしたのですよ！

市之介 ああしたよ、それが何か問題でも？

志摩 大問題よ、とくにこの絵！

盗んだ先の食材で遊ぶ市之介の姿

市之介 あ、これは……。これくらいからかってやったほうがいいかなと思って

樹 食べ物や粗末に扱うだなんてとんでもないと、ぶっちゃけ炎上してます。

睦彦 書き込みも凄いで「幻滅しました、五右衛門のファンやめます」

志摩 とりあえず謝罪のコメントは載せてるけど、しばらくは炎上続きそうね

市之介 ……ごめん

奈々緒 石川五右衛門は民の味方、その心を裏切るわけにはいきません。しばらくは盗みを自粛、信用を回復する方向で活動します

。いいですね

一同 (頷く)

参蔵 次の会議の議題は、炎上を鎮めるための方法と市之介さんへのペナルティは何にするかです。各自案を考えて来てください

。解散

市之介を残し一同去る。奈々緒が戻ってくる

奈々緒 市之介様

市之介 わるかったな。俺の悪ふざけでみんなに迷惑かけちゃって

奈々緒 結果はどうであれ、市之介様も我ら石川五右衛門の事を考えた上でされたことなのでしょう？ それに、何か迷っておられる

市之介 姫さんにはかなわないな。なあ姫さん、俺達は秀吉を倒すために盗みをしている。でもさ、どこまで行ったら俺達が勝った

ことになるんだ？

奈々緒 それは 秀吉を天下人の座から引きずり落とすことで……。

市之介 そうなったら 一応豊臣家でまとまってるこの国はまたバラバラ 再び戦国の世に戻る それは俺達の望んでる世直しなのか？

奈々緒 ……父や光秀様にかけられた汚名や屈辱をそのまま甘んじて受けると？

市之介 そういうわけじゃないんだ 秀吉の世になって苦しんでる人があるのはわかる 姫さんはもちろん 睦彦は秀吉お気に入り
の大工と揉めたせいで仕事を失ったって聞くし 志摩達は南蛮への留学を望んだばかりに両親を殺されたっていうじゃない
か ただ わからないんだ 何をすれば俺達は勝ったことになるんだ？

奈々緒 それは……。

市之介 悪い 言いすぎた あんた達の方が色々背負ってるのに ただ目立ちたいためだけに参加してる俺が口を挟むことじゃない
な

奈々緒 いえ 私も迷うことがあります 私は今やってることは結局私怨 ただの自己満足にすぎないのでは？って でも父の無念
を思うことをやめてしまえば それまでの私を否定することになる ……武士の家に生まれるということはそのいうことな
んです。

市之介 大変なんだな 普通の家に生まれればあんたくらいの年頃の娘 もっと気楽に生きてるぞ いや、そうなってるとうやっ
て会うこともなかったか。

奈々緒 それはわかりませんよ？ 市之介様が売れっ子役者で私がそれに憧れるただの町娘 もしかするとそんな世界もあったのか
もしれません

市之介 もしかしなくても売れっ子役者になるんだよ 俺は

奈々緒 そうでしたね 私も復讐をやめてしまえばそんな世界を選ぶのかもしれない

市之介 おい

奈々緒 なんてね 言っただけですよ？

市之介 姫さん

奈々緒 今は奈々緒です。 (可愛らしく)

市之介 思わず目を背ける。

奈々緒退場

市之介　奈々緒　俺は……！

市之介振り返ると、仁衛門が立っている。

市之介　でたあッ！

仁衛門　（市之介を止めて）お福様は世が世ならお前とは関りあつはずのないお方そして、豊臣の世が終わればこの国を支える一人になれる。……わかつてるだろうが、念のため。

市之介　へいへい、役者崩れには役者崩れの分があるって事ぐらいわかつてるさ。

仁衛門退場　市之介も続く。

どこからともなく現れ、文を受け取る参蔵　去ろうとすると五右衛門一味が現れ道を塞ぐ。

参蔵　これはこれは皆様お揃いで。

市之介　前から何かと怪しいと思ってたが、どこと連絡を取っていた？

参蔵　何のことで？

睦彦　今みたいにあんたがよそと文のやり取りをしているのは知ってた。

参蔵　そりゃあ、私は情報屋ですから他所とは連絡取り合いますよ。

奈々緒　京の街の外の相手と話す必要があるのですか？

参蔵　企業秘密です。そもそも何を証拠にそこまで？

志摩　こないだあなたの話し相手にカラクリを仕掛けさせてもらったの。『ごつつい精度でばーつと位置を教えてくれる仕掛け』

略してGPSよ！

参蔵　やれやれ、仲間を信じることも出来ないとは。

樹　その仲間を売ったのはあなたじゃないんですか？

仁衛門　秀吉に恨みを持つお福様やこのわしに取り入り、盗賊団石川五右衛門の話を持ちかけて来たのは参蔵、お前であった。豊臣の世に反旗を掲げつつ、民からの厚い支持を得る。その見事な計画にわしらは乗った。数え切れぬほどの恩もある。だが、それら全てがお前の計画のうちだったというのか？素直に吐けば苦しまないようになしてやる。

参蔵　そこまで言うのなら好きになさい。確かな証拠もなく　無抵抗の相手を殺せるというのならね（寝転がる）。

仁衛門　（迷わず切りかかる）

参蔵　（身軽に避けて）殺す気か！

仁衛門　その身のこなし、貴様忍びか？　どこの手のものか吐いてもらうぞ。

参蔵　……徳川の命によってあなた達を監視してました。

仁衛門　徳川……家康公か？

参蔵　ええ、齊藤利三の忘れ形見がどこまで秀吉公に喰らいつけるか、それを見極めよという命令でした。あと出来る限りの手助けをしてやれとも。

奈々緒　家康公が……何故です？

参蔵　あのお方は常に先のことを考えておられます。豊臣の世が終わった時誰がこの国をまとめるべきか。そして誰を味方につけるべきか。

奈々緒

参蔵

仁衛門

睦彦

参蔵

睦彦

参蔵

仁衛門

奈々緒

参蔵

樹

参蔵

奈々緒

参蔵

志摩

金印？

……ここには書かれていますね？
はい。家康公はこれまでの石川五右衛門の活躍を高く評価しており、今後の活動においては是非力添えをしたいと申されています。また、豊臣家を倒した暁には齊藤家の復興、そして他の者に見合うだけの望みを叶えることを約束してもいいと、それは例えば南蛮に渡りたいということでもいいんですか？
ええ、ですが
条件がある、と、ここには書かれていますね。
はい。家康公が力添えをするためにはあるものを盗み出して欲しいのです。それは秀吉公が関白になった際に帝より下賜された金印。
金印？　そんなもの聞いたことないわ？

参蔵 まあいわゆる「知る人ぞ知る話」ってやつですよ。本来なら今の関白である豊臣秀次が引き継がねばならぬそれを、秀吉は

伏見の城に隠しているとの事です。

樹 でも、そんなものをどうして家康公は？

参蔵 関白を譲ってもなお、秀吉公は天下を我が物にしているということ、そしてそのこだわっているものすら盗人から守れない

ことを知らしめてやりたいとのことですよ。ですから、今迄と違って予告をして盗まねばなりません。

奈々緒 犯行予告ですか……警備が厳しくなりますね。

参蔵 どうですか？ この話受けるも受けないも自由ですが、どちらにしても私はその返事を家康公に送らねばなりません。

仁衛門 奈々緒様、これはまたとない機会です。斉藤のお家を再興できるなら亡き父上もお喜びになられるでしょう。

睦彦 断った場合、どうなるんだ？

参蔵 今まで通りですよ。まあ私は家康公の元へ戻らねばならないでしょうが。

志摩 むしろ戦力ダウンってわけね。私は奈々緒の判断に任せるね。

樹 僕もです。

奈々緒 ……わかりました。家康公の申し出受けましょう。

市之介 それでいいのか？

奈々緒 市之介様はさっき言ってたじゃないですか、『どこまでいったら俺たちの勝ちなんだ？』って。家康公に協力して、豊臣が

倒れた後の国は徳川がまとめる。それなら勝ちといえるんじゃないですか？

でもお前は

市之介 市之介。

仁衛門 ……。

市之介 五右衛門世間、次の盗みは伏見城。目当ては金印！ 顔本と秀吉の下に犯行予告の後活動開始！

奈々緒 えいえ……

襖が開いて久美がにらみつける。

一同 (小声) おう！

一同退場 市之介と奈々緒の視線が一瞬交差するが……。

伏見城 三成と清正

清正 大胆不敵にも程がある。盗みの予告だけでも正気を疑うというのに、それがここ伏見だとは

三成 これまで捕まったことのないゆえの慢心か、そうでなければよほどの自信があるということなのだろう

清正 しかし、金印か。何故秀吉様はそのようなものを、関白の証として下賜されたものなら、それは関白が持つべきだろう

三成 確かに今の関白は秀次様だ。しかし、秀吉様は恐らくこつ考えておられる。『秀次には位を譲ったわけではない。預けているだけだ』と。

清正 つまり、秀次様はあくまで拾丸様が成人されるまでの繋ぎでしかないかと？ 秀次様とて養子とはいえ我が子だぞ？

三成 それは秀吉様にお子がおられなかったからだ。今は拾丸さまがおられる

清正 自分の子ではないのかもしれないのに？

三成 ……

清正 沈黙するということは、何を言われているか理解しているからだと判断するぞ。何故あのようなことを？ お前のやったこととは大きな裏切りだ。

三成 何のことだ？ 拾丸様は淀様がお産みになられた。そして淀様は秀吉様のご側室。ならば拾丸様は秀吉様のお子に間違いないだろう。

清正 自分の血に天下を取らせたいという野望か？ ……それとも裏切りをわかってなおあの女を？

三成 淀様をあの女呼ばわりなど、解ける謹慎も解けなくなるぞ。

清正 答える三成 お前は何故自分の主君の女を抱いた？

三成 ……清正殿 あなたの言っていることを私は全く理解できない。だが、もし私の言動にあなたにとって理解しがたいものがあるならば、それは私が折り合いをつけただけだ。

清正 折り合い？

三成 そうだ。私の主君への忠誠。私の武士としての誇り。そして私の男としての望み……そのすべてに折り合いをつけただけのことだ。

清正 ……

三成 本題に戻ろう。あなたにはこの伏見の建て替えを任せたい。築城に対して非凡な才を持つ清正殿に賊の侵入を防ぐ。いや忍び込んできた賊を捕らえる仕掛けを。

清正

私は女でありながら虎殺しの猛将と呼ばれている。女が強いのは武士の名折れと男の影武者を立てられている始末だ。だから私が豊臣家配下の中でどのように思われ扱われているかも自分ではわかっているつもりだ。しかし、お前はどのような私に対して態度を変えることはなかった。私を私としてちゃんと見ていてくれるからだと思っていた。私は

三成

清正殿、私があなたに対して女だからと態度を変えないのは、それが私にとって関係ないことだからだ。

清正

……そうか。

三成

しかし、さっきのようなことを言ったのは男女問わずあなたが初めてだ。

清正

……そうか。なら五右衛門を捕らえる仕掛け、任された。私の得意なものが槍だけではないことを見せてやる。

三成

だから、こうして任せている。

清正

(笑みを浮かべる)

三成・清正退場

見張りが交差して警備している。玄以登場

玄以

異常はないか？

見張り

はい！

玄以

いいか、太閤殿下は我々に汚名返上の機会を下さった。この伏見の守りを抜けられたら、我らの見る暁の光はないと思え！

見張り

はい！

見張りに変装した市之介登場

玄以

貴様、どこに行ってた？ ん？ どこかで見た顔だな。

市之介

あの、その、腹の調子が……。

玄以

そうか、以前見た芝居に出てる役者に似ておるのだ。何か、(適当な真似) って変な動きでひんしゅくかってたな。

市之介

あれはきつと流行るぜ……！ いや、流行ると思います……。

玄以

そっ、いやあの動き、につつき石川五右衛門に似てたな。まてよ、あの役者が石川五右衛門に似ていて、お前がその役者に似ている……成る程。

市之介 (ギクギク)

玄以 「世界には自分のそっくりさんが三人居る」というのは本当だったのだな ワハハハ！ ではここは任せな。

見張りA どちらへ？

玄以 清正殿の 盗人を捕らえる仕掛けが完成したらしい。

玄以退場

見張りA では我らも

市之介 いたたたた……またお腹が……悪い 先行っててくれ。

見張りB 悪いもの食ったんじゃないか？ 気をつけるよ。

見張り退場

市之介 盗人を捕らえる仕掛け だって？

事前打ち合わせの回想。

参蔵 伏見城築城の際の間取り図です。 天守閣に秀吉公のお宝部屋があるので恐らく金印はそこでしょう。

睦彦 間取り図なんてそんなものよく手に入れたな さすが伊賀者

参蔵 これを元に私達が忍び込むのですが、問題は金印を秀吉公自身が肌身離さず持っていた場合です……。

仁衛門 いや、むしろ危険だからと秀吉は淀君や跡継ぎと共に安全な場所隔離されているはずだ。

志摩 ならいつもの様に市之介が見張りの気を引いてるうちに私達で盗めば楽勝ね。

奈々緒 私達は市之介様の合図で動きます。

樹 城内では連絡ができないので、いざというときはこれを。

回想終わり。

市之介 あの間取り図には まだ仕掛けなんてなかった。 ……見に行くか。

市之介退場

お宝部屋の前の三成・清正・玄以

玄以 この部屋が太閤殿下秘蔵の逸品の……。

三成 今はあの金印以外は避難させてます。 清正殿 説明を

清正 部屋に入って金印を動かせば四方の壁 床に天井とすべてが鉄の板で覆われる。 言葉にしてしまえば単純な仕掛けだ。

玄以 鉄の板ですな。 しかし、奴は蔵の壁を

清正 蔵の土壁を崩す程度の火薬では破れぬ厚さだ。 大体 この部屋の大きさでそれだけの火薬を使えば自分が蒸し焼きになる

玄以 なるほど。 ここに入ったが最後 石川五右衛門は籠の中の鳥同然と。 して 金印の守りはいいとして 石川五右衛門が忍び

込んでくるのをいかにように？

三成 ここ何回の盗みを見てわかったことがあります。 我々の前に現れる石川五右衛門はあくまで囃 本命は他にいる。 お気づき

になりませんでしたか？

玄以 何！？ いや……その、もしかするとそうかもとは

なら我らは囃の石川五右衛門に振り回される振りをしながら 金印を取りに来た本命がこの部屋の仕掛けに引っかかるのを

待てばいい。

玄以 ……なるほど。

ではここは最低限の見張りをおいて我らは警備の本陣へ。

三成達退場 隠れて様子を見ていた市之介現れる。

市之介

鉄の壁だって？ こんなところにあいつら入ったら一網打尽じゃないか。 早く知らせなきゃ……どうやってだよ？ アレでは細かいことは伝わらないし……今のうちに俺があの金印を盗むか？ それこそどうやってだよ。 ……逃げちまおうな。 そうだよな。 俺は秀吉に恨みがあるわけじゃないし、そもそも脅されてだけで目立ちたかっただけだ。 ここで逃げていいよな。 そうだ江戸まで逃げれば、たとえあいつらの誰かが俺の名前を言っても……。

奈々緒の姿が浮かぶ

奈々緒 それはわかりませんよ？ 市之介様が売れっ子役者で私がそれに憧れるただの町娘 もしかするとそんな世界もあったのか

もしませんわ

市之介 ……くそ！ 俺は役者だもんね 最後まで演じきなきゃよお！

市之介 走り去る

城内に忍び込んだ奈々緒達

志摩 なんとかここまでは来れたわね

睦彦 天守閣の近くまで来るとさすがに警備が厚いな 此処から先は市之介の陽動待ちか

仁衛門 奈々緒様

奈々緒 ええ あそこに秀吉が……

花火が上がる

参蔵 あれは 市之介さんに渡した合図の花火ですね

奈々緒 行きましょう！

樹 待って下さい。あの花火の色は「予想外の事態発生 至急逃げる」です

仁衛門 予想外の事態だと いったい何が？

見張り (声) 石川五右衛門が現れたぞ——！ 捕らえる！

志摩 (望遠鏡を取り出し覗く) 市之介が天守閣の屋根に！

奈々緒 貸してください。……警備が天守閣に集まっていく あれでは 市之介様が逃げられません

様々な色の花火が上がる

樹 渡した全部の色の花火をあげました。まるで俺はここにいて周りに言ってるみたい。

参蔵 まさか、市之介さんは自分が引き付けている間に逃げると。

仁衛門 ならば今のうちに

奈々緒 待って下さい、何が起きているか私達には何もわからないんです。なのに市之介様を置いていくのですか？

仁衛門 だとしても、あれでは助けに行きようがありません。

参蔵 警備のものも無傷で済ませる訳にはいかないでしょう。我らは石川五右衛門、不殺でやってきたのですよ。

仁衛門 それに何より、我々だって無事とは限りません。特に奈々緒様、あなたの身に何かあれば亡き主君に顔向けが出来ません

奈々緒 ですが、

参蔵 奈々緒を当て身で気絶させる。

参蔵 志摩さん、奈々緒様を車に。

志摩 ……わかった。樹

樹 え ……ああ、（二人で奈々緒を抱え退場）

仁衛門 睦彦来た道を戻れるか？

睦彦 ああ、予定してた脱出経路とは違うが、何とかなる。

仁衛門 なら行こう。あいつが作ってくれた機会を無駄にしないうちに。

一同退場 参蔵だけ一瞬振り返る。

見張り・玄以相手に大立ち回りの市之介。

市之介 ほらほら、この程度では俺様は捕まらないぜ！

玄以 ほざけ、三成達はああ言ったがこの前田玄以、金印を守るだけではなく貴様も捕らえてみせるわ！

市之介 金印？ ……ああ、そんなものもあったな。しかし、俺様はもっと奪うべき宝を見つけちゃった。 ……何だと思っ？ 秀吉の跡継ぎだよ！

玄以 拾丸様をだど？

市之介 ああ、老いばれ秀吉の残された唯一の跡取り、それが一番のお宝じゃないか？ 何しろ奪えばそれこそ豊臣の世の終わりだからな！

玄以 何だと！

清正 (登場) それは聞き捨てならんな

玄以 清正殿

清正 三成殿は太閤殿下のところに。例え、我らの目を引くための嘘だとしても、今の言葉、後悔するぞ。
市之介 後悔だ？ その言葉そのまま返すぜ。来いよ、虎殺しの大女！

清正の攻撃を受け止める市之介。

清正 この感触は、まるで鋼を打ったようだ。

市之介 俺だって成長してるっての！ 攻撃が来ることに集中すれば……。
玄以 ならば

清正の攻撃に合わせて玄以が背後から殴る。

市之介 卑怯だぞ！

清正 前田殿！ 盗人相手とはいえ武人の戦いを汚すか？

玄以 一騎打ちが武人の意地なら、どんな手でも悪を捕らえるのが所司代の意地。元より盗人相手に通す義などなし、捕らえよ！

市之介も抵抗するが数で同時に掛かられて捕らえられる。

玄以 石川五右衛門、引っ捕らえたりー！

暗転

秀吉と三成

秀吉　そうか、捕らえたか。聞いたところ玄以の手柄とか。奴のこれまでの不始末は水に流そう。そうだ、清正の謹慎も解くとあいつに伝えておいてくれ。

三成　ですが、捕らえたのはあくまで囃の男。これより尋問にて黒幕を

秀吉　やるのは構わんが、無理に吐かせる必要はない。それよりその男を石川五右衛門として出来る限り無残に処刑させる。

三成　黒幕を突き止める必要はないと？

秀吉　無理をして殺すなど言っている。見せしめになれば、黒幕など誰でもいい。それよりも、わしはこの後のことを考えねばならん。お前にもそれを手伝って貰いたい。

三成　この後のこと？

秀吉　……わしはそう長くないだろう。もしかすると拾丸が元服するまで待てないかもしれない。それまでに残しておきたいのだ。豊臣、いや拾丸を頂点にこの国を纏める仕組みを、三成、やってくれるな。

三成　はい、この身でなせることを全力で行います。

秀吉　そうかしこまらなくて良い。わしは可愛い我が子のためにやるだけだ。お前も同じ気持ちでやってくればいいものが出来るはず。そう、お前なら心の底から出来るであろう？

三成　……あなたは何処まで……。

秀吉　わしはこの国の父だ。拾丸も、お前も、みんな我が子のように思ってるぞ。

三成　……はっ。

秀吉　石川五右衛門の処刑、頼んだぞ。

秀吉退場　三成もその後姿を見送ってから退場。

五右衛門の隠れ家　参蔵が入ってくる。

奈々緒　どうでしたか？

参蔵　捕まったというのは事実のようです。処刑の日の発表までありません。

奈々緒　なら早く助けにいきましょう。

仁衛門 それはできません。いいですか。あの男はあなた様とは縁もゆかりもない。自分の芸を見せたいだけのただの役者崩れなのですよ。

奈々緒 そうです。私には縁もゆかりもない方が。私の復讐に付き合っ、私達のために捕らえられ、殺されようとしてるのです！でもね奈々緒、私達みんな捕まれば命はないことを覚悟はしていたはずよ。市之介だって同じ。誰か一人のために残り六人が危険に晒されることはないわ。

仁衛門 これも武家の娘の定めです。自身の生き死にはすべてお家のためにあるものとご理解ください。

樹 仁衛門様の言うとおりです。……市之介さんは僕が助けますから。

志摩 樹 あんた何言ってるのよ？

樹 ここで引き下がったら僕はただ負けただけじゃないですか？ 姉さんは悔しくないんですか？ 僕はたとえ一人でも市之介さんは助けだして見せます。

睦彦 やめとけよ樹。お前一人じゃ無理だ。……俺も行くよ。

樹 睦彦さん。でもあなたは

睦彦 話し合いの後、あいついつも俺の家で飯食ってくん。その時いつも『俺は有名になる。かぶき踊りは絶対流行る』て言うんだ。まるで子供のように目を輝かせてな。……そんな奴が死じゃあいけねえ。俺達でやろう！

志摩 ……男ってのは本っ当馬鹿。だったら、私もやるしか無いじゃない。

樹 姉さん。

志摩 でも今度からそういうことはまず初めにこっちに相談すること！ (睦彦に) そっちもウチの弟煽らない！

樹・睦彦 イエス、ママ！

奈々緒 仁衛門、ここで逃げ延びてお家を再興したとして、私は胸を張ることが出来るのでしょうか？ あの時の市之介様の犠牲で望みが叶ったと笑えますか？

仁衛門 私は武士です。あなたを守る義務がある。

奈々緒 ならば、いかなる場においても私を守り切ると言いなさい！ 私はあの方を助けに行きます。その背中を守りなさい。

仁衛門 ……はっ。

参蔵 私もお手伝いしますよ。石川五右衛門の力添えをしるというのが家康公の命令ですからね。しかし、どうやって助け出しますか？

奈々緒 今は牢に厳重に閉じ込められていることでしょう。ならば処刑当日なら……。

参蔵 ならば、私に一案あります。そのためには一人巻き込まねばならない人物がいますが……。

顔本片手に弥次郎登場

弥次郎 待ち合わせはここだよ（顔本を見る）『顔本管理者の方 当方石川五右衛門について重大な情報あり』……捕まったはずの石川五右衛門の名前でこの書き込み 裏がありそうだけ。

弥治郎を一同が囲む

弥次郎 何だよ あんた達？ あれ 重蔵さん？

参蔵 我らは石川五右衛門

奈々緒 あなたを巻き込むために呼び出しました。用意してほしいものがあります。

暗転

牢の中の市之介。清正に打たれている。

市之介 ありがとうございます！ ありがとうございます！

三成 ……あれから石川五右衛門の動きがない。つまり囷のお前は完全に見捨てられたのだ。それでもなお仲間義理立てするつもりか？

市之介 仲間？ ハッ 何のことだか知らないねえ。石川五右衛門とは俺のことだ。

清正 市之介を打つ。

市之介 ありがとうございます！

三成 わからんな 見たところ武士でもないお前が 何を頑なに守ろうとする。

市之介 何のことだか分からんが あんただって守りたいものの一つや二つはあるだろう？

三成 ……確かに私にもある。おまえが到底理解できないものだがな。

市之介　ならこんな無駄なことやってないで　さっさと処刑すればいいだろ？

三成　……処刑の日は決まった。京都所司代が趣向を凝らすとのことだ。

市之介　それはありがたくて涙が出るね。

三成　行こう。

清正　いいのか？

三成　これ以上は吐くまい。

三成・清正退場

市之介　……くそ、好き放題殴りやがって……まあ、あいつらが捕まっていけないのなら捕まった甲斐があるってものだよね。処刑か

あ、これで俺の役者人生幕切れかよ。……もう一度舞台に立ちたかったな。

暗転

準備をしている睦彦　久美が入ってくる。

睦彦　起こしちゃったか……ちょっと急ぎの仕事が入ってな。行ってくる。

久美　……あんな、私に何か隠し事してない？

睦彦　ギク！　とうとうバレちゃったか、俺の道具置き場の奥の瓶にヘソクリ隠してるんだ。好きに使っていいぜ。

久美　処刑される市之介さんを助けに行くんだろ？

睦彦　……知ってたのか。

久美　あんだだけ毎回大声上げてたら気づくわよ。

睦彦　ヘソクリも本当だぜ。本当は、ある程度貯まったら田舎でのんびり暮らすための資金にするつもりだったんだけど、でも

もし万が一のことがあったら

久美　馬鹿にするんじゃないわよ！　金なんてあんなに居なかったら意味がない！

睦彦　久美……。

久美

仕事を干されて抜け殻のようになってたあんたが、仁衛門様達と会うようになってから昔のあんたに戻ってくれたのは嬉しかったんだよ。それがたとえ盗人の手伝いだったとしても。だったら、私に出来ることはあんたが無事に帰ってくことを祈るだけじゃない！

睦彦

……悪かったな。必ず戻るから、飯を作って待っていてくれ。もちろん、市之介の分もな。

久美

あんた……。

睦彦

じゃあ、行ってくる。

久美

無事を祈ってるよ。それと……ヘソクリはもらっておくから。

睦彦 微妙な顔して退場 久美もその背中を見送り退場

市之介の処刑の準備が始まる 三成登場

玄以

石田殿 太閤殿下は？

三成

謹慎を解かれた清正殿が付き添っています。もうまもなく来られるでしょう。

玄以

そうか。何はともあれ、これで京の街の秩序が守られるというわけだな。

三成

いえ、今後も天下を狙うものは尽きないでしょう。

玄以

まるでそうあってほしいみたいに言うのだな。

三成

我々は誰が相手であろうと、豊臣の天下のために戦う。だから「これで終わり」だとは思わないほうがよいと言っているのです。

玄以

……成る程。さすがに石田殿は違う。では罪人をこれに。

縛られた市之介が入ってくる。

玄以

京の街を騒がせし盗人石川五右衛門。本日釜茹での刑にて貴様を処刑する。

市之介

茹でるだなんてまどろっこしいことせずに、直火で焼いたらどうだ？

玄以

楽には死なせるなという太閤殿下のご意思だ。この釜の中は、一瓶五千円のエキストラバージンオイルで満たされている。これで貴様をカラッと揚げてその上から追いオリーブオイルを注いでやる！

市之介 オリーブオイル推し過ぎだろ ヘルシー志向にも程がある！
見張りA 太閤殿下が来られました！

清正を従えた秀吉登場

秀吉 お前が我が天下を狙った石川五右衛門か？ 最後にあたって言い残すことはないか？ そうだな お前をけしかけたのが誰

かこの場で白状するなら 釜茹でだけは勘弁してやってもかまわんぞ？

市之介 けしかけた？ 俺を駆り立てたのは あんたを恨み 呪い 踏みつけられた痛みを忘れることの出来ない全ての者達だ。

清正 貴様！ 戦国の世を治め 平和をもたらしたのは誰でもない太閤殿下だ。その大義をわからないというのか？

市之介 同僚を毘にかけて主君殺しの汚名を着せるのも大義の内かい？

秀吉 ……なるほど 明智絡みの者な 経緯はどうであれ 光秀が信長公を討ったのは事実 わしはその仇を討ただけだ ……

言いたいことはそれだけか？

市之介 おっと、その前に辞世の句を詠ませてくれよ 『石川や浜の真砂は 尽くるとも 世に盗人の 種は尽くまじ』、俺がここで

死んだとしても いつか必ずこの豊臣の世を狙う盗人が現れる。あんた達が作ったこの時代が仮初めの平和だってぶち撒ける奴がな！ そいつはきつと言う 誰かを騙し踏みつけて作った天下なんか糞っ喰らえってな！

秀吉 ならば 何度でも捕らえ縊り殺してやるわ。この天下は今やわしだけのものではない、次代を担う我が子の天下だ。……玄

以 こやつを釜に。その断末魔の声を豊臣の世を狙う全てのものに向けて轟かせよ！

玄以 はっ (見張りに) そやつを釜に投げ入れる！

見張りが市之介を押さえて釜に運ぼうとする

その時花火が上がる

玄以 何だ？

奈々緒 (声) その者は石川五右衛門に非ず。

市之介 この声は？

石川五右衛門の扮装をした一同登場

仁衛門 天下を搔っ攫いし豊臣秀吉を倒すため

参蔵 正しき世を見据えるため

志摩 踏みつけられし者の声を聞くため

樹 声にならぬ嘆きを背負うため

睦彦 民の願いを聞き届けるため

奈々緒 我ら全員揃って石川五右衛門。そう我ら

一同 五右衛門世聞！

決めポーズ！ 見張りを追い払って、市之介の縄を解く。

市之介 お前ら何で来たんだよ？ それにその格好

参蔵 弥治郎さんに揃えてもらいました。私達はみんなで一つです。誰一人見捨てるわけに行きません

市之介 お前ら……本当に馬鹿野郎だぜ

秀吉 三成 こ奴等を一人残らず捕まえる！

三成 はっ 前田殿 秀吉様を！

玄以 わかった。太閤殿下、こちらに

志摩 ってことだから、こいつら蹴散らして逃げるわよ！

玄以 秀吉を連れて退場 乱闘が始まる

清正 させるかあああああ！

清正の槍の一振りです全員吹き飛ばす！とおもいきや、仁衛門が一人で槍を受け止めている

仁衛門 姫様！ いかなる場においてもこの仁衛門、あなたを守り切りましょう！

奈々緒 仁衛門……武運を！

仁衛門、睦彦を残し、バラバラに退場

清正 私の槍で死ぬ名誉がほしい者からかかってこい！

仁衛門 いくぞ睦彦！ この仁衛門、虎より手強いところを見せてくれる！

睦彦 くそ、しかたねえな！

清正達退場

市之介・志摩・樹・奈々緒登場

奈々緒 下流に弥治郎さんが船を用意してくれています。そこまで行けば

市之介 それはいいけど、睦彦達とはぐれちゃったぜ。

樹 大丈夫です、市之介さんが逃げ切ったら合図の花火を上げますから

志摩 それを確認したら各々逃げる段取りになってるの。

追手が現れるが、追ってきた参蔵が倒す。

参蔵 ご無事そうですね。ですが、下流は先回りされています。

志摩 じゃあどうするの？

参蔵 一度戻りましょう。人質を取るのです。まだ秀吉公がいれば一番ですが、最悪前田玄以か石田三成を押さえることが出来れば、この囲いを突破できるでしょう。

市之介 そんな簡単にいくか？

参蔵 考えてる暇はないみたいですよ。

新たな追手が来る。食い止める志摩と樹。

樹 一度言ってみたかったですよね。「ここは俺達に任せろ！」

市之介 その台詞微妙にやばい匂いがするぞ

樹 「別に、アレを倒してしまっても構わんのだろう？」

市之介 おいやめる

志摩 いいからさっさと行って来なさいよ 私達は合図が上げれば逃げるから

市之介 悪い

参蔵 では市之介さん 行きましよう

奈々緒 私も行きます。私は最後まで市之介様が逃げ切るのを見届けます。

参蔵 ……わかりました。では、二人共ここはお任せします。

市之介・参蔵・奈々緒退場

志摩達も立ち回りをしながら退場

三成登場 配下の者の報告を聞き指示を与えている

三成 誰だ！

市之介と参蔵で三成を取り押さえる

三成 私を捕まえてどうするつもりだ？

市之介 悪いけど、人質になってもらうぜ。

奈々緒 大人しくしていただければ、命までは奪いません

三成 見たところ秀吉様に滅ぼされた武家の姫か。お家の復讐に盗賊の真似事とはな。この豊臣の世が倒ればまた戦が起ころ

そして、まだどこかの家が滅ぶ。お前のやっていることは、新しいお前自身を作ろうとしていることだぞ？

奈々緒 だとしても、背負う覚悟はあります。

三成 ならば、今ここで私を殺せ。たとえここを逃げ切っても、必ずお前達の前に立ちはだかってやる。豊臣の天下を覆させはし

ない！ お前に引き継いだ想いがあるなら、私にも引き継がせたい想いがあるのだ！

参蔵 そろそろ行きましよう。

奈々緒 ……はい。

背後から玄以現れて奈々緒に斬りかかる。

市之介 危ない！

庇って肩を斬られる。

奈々緒 市之介様！

玄以 石田殿 ご無事か。（市之介達に）ここは我ら所司代によって包囲している。大人しくお縄につけ！

奈々緒 市之介様 私のせいで……。

市之介 大丈夫 と言いたいところだが 思ったより深く斬られちゃった。こいつは厳しいかな 悪いな せっかく助けに来てくれたのによ。

奈々緒 そんなこと言わないで下さい。今からでも何とかして逃げましょう！

市之介 参蔵 合図のための花火を貸してくれないか？

参蔵 策がお有りですか？

市之介 俺は役者だぜ？ この後の筋書きぐらい考えてるさ。

参蔵 ……これです（渡す）。

市之介 ありがとよ。俺が行動を起こしたら 姫さんを頼むぜ。

奈々緒 ？ 何をするつもりですか？

市之介 一世一代の大舞台よ。（玄以に）わかった 降参する。さすが京都所司代前田玄以 この石川五右衛門もお手上げだ。

玄以 そうか。ならこの私自ら縄にかけてやるう。今度こそ 地獄の釜で茹で殺してくれるね。

玄以 市之介に近づくと、逆に捕らえられる。

市之介 おっと全員動くな！ 俺が今もってるのは蔵の壁を破れる威力の爆薬だ。俺が釜に入った途端こちら一帯バーンだ！ どうせ俺は逃げられねえ。だったら前田殿 地獄へご同行願おうか？ 一緒にヘルシーに揚げがっちゃんやうぜ！

玄以 やめるー！

奈々緒 やめて下さい！

参蔵 奈々緒様 下がって。隙を見てここを抜けます。

奈々緒 嫌です、市之介様も一緒に！

市之介 市之介？ 俺は石川五右衛門だ！ ……俺は役者なんだよ。みんなと違って目立ちたいだけの役者だ。でも役者つてのは

よ、幕が下りる最後まで演じきらないじゃないんだ。だから俺は、俺こそが天下の大泥棒、石川五右衛門だ！ あばよ石田三成 『秀吉の世が続く限り、石川五右衛門は必ず現れる。次の盗みでまた会おうぜ！』

奈々緒 市之介様！

市之介 あばよ、奈々緒

玄以を放し、市之介花火を上げる。怯む一同。

爆薬を高々と掲げ、釜へと入っていく市之介のシルエットが見えて

暗転

伏見城 大坂へ帰るねねを見送る秀吉達

ねね では秀吉様、また大坂で会える日を楽しみにしてますね。

秀吉 おお、今度はちゃんと約束を守ることをここで約束しよう。

ねね その約束を守ることを更に約束してほしいですけどね。

秀吉 ハハハ……。

ねね 淀様、秀吉様のことをよろしくお願いします。

茶々 ええ、ねね様の分もお支えいたしますね。

ねね 石田殿、加藤殿、あなた達も体に気を付けて。

三成・清正 はい。

ねね では、私はこれで。

ねね 退場

茶々 行ってしまったね。これでやっと二人きりになれますね。

秀吉 三成、清正、朝鮮へ攻めこむぞ。

三成 戦を再開させるということですか？

秀吉 ああ、ここから先もわしの天下を盗もうとする奴が現れるのなら、盗みきれないほど大きくなってやる。朝鮮も、明もわしのものにしてくれるね。盗人め、それでも盗めるものなら盗んでみる！

秀吉退場 茶々が後を追うが、一瞬振り返り三成を見つめて去る。

清正 三成……。

三成 清正殿、我らはこの天下を守るために動かねばならん。力を貸してくれるか？

清正 ……言われなくても！

三成・清正退場

旅姿の五右衛門一行を見送る弥治郎

仁衛門 巻き込むだけ巻き込んで、すまぬことをしたな。

弥治郎 いいってことですよ。さすがに市之介が石川五右衛門だって聞かされた時は驚いたけど、困ったときに友達を助けるのは当然って奴さ。これからどうするんだい？

奈々緒 縁者を頼ることにしました。そこで少し落ち着いて考えなおしてみます。今の私に出来る事を。もう二度と誰も巻き込まずに何が出来るかを。

弥治郎 あまり気に病むなよ。確かに市之介は助けることが出来なかったけど、あいつはあいつで幸せだったと思うぜ。なんたって最後まで一つの役を演じ切れたんだからな。

奈々緒 ……はい。

志摩 参蔵、ありがとう。このご時世に南蛮までの船を出してもらえるだなんて。

参蔵 これにてお役御免です。その代わり、新しい勤めに入らねばなりませんけどね。

樹 恩返しに南蛮の技術医術を学んで、必ず帰ってきます。

弥治郎 おう、今はバラバラになるけどみんな必ず京に帰ってこいよ。待ってるからな。そうそう俺、四条大橋のそばに芝居小屋建

てようと思うんだ。あいつが寂しくないようにさ。絶対流行るぜ！

睦彦 なら俺はここに残るぜ。腕の良い大工が必要だろ？ 久美の奴も京から離れたくないって言うしな。

奈々緒 では石川五右衛門これにて解：散：。皆さん今までありがとうございました。

一同頭を下げ思い思いの方向に去る。

参蔵だけが残り、文を書く。

参蔵 よかったんですか？ みんなの前に姿を表さないで。

市之介登場

市之介 あの空気で出れるかよ。それに、俺はあそこで石川五右衛門として死んだんだ。

参蔵 全く捻くれ者ですな。助けた甲斐がありません。

市之介 誰も助けてくれだなんて言ってる。大体、全部お前の計画なんだろう？ 俺を死んだことにするって。ならこれでいいじゃないか。

参蔵 ……おや、気づいてましたか？

市之介 伊賀の忍びが、「石川五右衛門に扮装して暴れてその隙に逃がす」だなんて大雑把な救出計画たてないからな。みんなが暴れている隙に釜を入れ替えて、中にはいった俺を回収。始めから準備してなきや出来ないだろ。

参蔵 あの状況で正攻法の救出なんて無理ですからね。まあ、皆さん思った以上に奮戦してくれたのですり替えは簡単でした。それも市之介さんの人徳ってやつですよ。

市之介 ちっとも褒めてねえよ。しかしよ、そんな手の込んだことまでしてなんで俺を助けようとしたんだ？

参蔵 そうですね……「役者は幕が下りる最後まで演じきらなきゃいけない」。その言葉を借りて言うなら、「幕が下りても役者は死なない。幕が下りれば、次の舞台に立つだけだ」ってところでしょいか？

市之介 ……そういうことを言うってことは、俺に立たせたい舞台があるってことか？

参蔵 家康公が最近病気がちでして 中々人前に出ることが出来ないのですよ それで影武者を出来る人物を探しています ……

どうですか 今度は天下を盗む大芝居 打ってみませんか？

市之介 ……おもしれえ！。

市之介・参蔵見つめ合ってニヤリと笑う。

対面上に三成が現れ 関ヶ原の合戦を象徴するイメージとなり

― 幕 ―